

4 主要作物生育、作柄の概要

1) 農作物生育状況

(1) 普通作物

① 水稲（平年並 作況指数101 県北部101 県中部99 県南部102） 農林水産統計より

[早植栽培]

（経営技術課情報より）

- ・ 4月中～下旬の日照時間が少なく、移植時の苗の生育はばらつき気味だった。病害はムレ苗が一部に見られたが全体的に発生は少なかった。
- ・ 5月第1半旬の降雨の影響により、田植えは第2半旬が中心となった。5月中旬は気温が低い日が続いたことから、活着が遅れ、初期生育は小さかった。
- ・ 5月下旬～6月上旬は平年並になったが、6月中下旬は低温・日照時間が少なかったことから分けつの発生が遅れた。病害虫では、イネドロオイムシが県中北部を中心に見られたが、その他の発生は少なかった。
- ・ 7月以降、気温は平年より高く日照時間は多く経過した。高温により出穂期は早まり、平年より2日早い8月1日だった。病害虫の発生は少なかったが、県南で縞葉枯病の要防除水準を超えるほ場が見られた。
- ・ 9月上旬も平年より気温は高く、日照時間は多く経過したことから、成熟期は9月10日で平年より5日早まり、登熟日数は41と3日短くなった。

[普通植栽培]

（経営技術課情報より）

- ・ 苗の生育は、草丈が長く、乾物重は重く、良好だった。
- ・ 田植後の6月下旬は日照時間は長かったが、気温は低かった。このため初期生育は遅れ、草丈は低く、茎数は少なかった。
- ・ 7月中旬から8月上旬の日照時間が、平年より多く、気温も高く経過したため、草丈や茎数は平年に近づいてきたが、葉色は薄い状況だった。
- ・ 8月中旬以降高温・多照で経過したことから、出穂期は8月26日で、平年より1日早まった。出穂期以降も同様に高温・多照が続いたことから、成熟期は10月7日で平年より6日早まり、登熟日数は43日と5日短くなった。

表 主要品種の生育概況（生育診断は平均）

（経営技術課より）

品種	出穂期			成熟期			登熟日数			登熟歩合(%)			収量(kg/10a)		
	H24年	平年	差	H24年	平年	差	H24年	平年	差	H24年	平年	差	H24年	平年	比
コシヒカリ (早植)	8月1日	8月3日	-2	9月10日	9月15日	-5	41	43	-3	88.3	80.8	7.1	59.9	56.6	106
あさひの夢 (普通植)	8月25日	8月26日	-1	10月7日	10月13日	-6	43	48	-5	88.6	81.2	7.5	56.9	52.6	108

参考：品質の概況（平成24年10月31日現在）

（農水省調べ）

- ・ 1等比率コシヒカリ94.3%、あさひの夢89.6%、なすひかり91.9%。
- ・ 2等以下各付け理由の上位は、カメムシ類46.0%、胴割粒15.0 乳白・心白粒13.7%。

② 麦類（平成24年産）

（経営技術課情報より）

収量(対前年比) 小麦：107 二条大麦：90 六条大麦：79 農林水産統計より

- ・ 播種時の天候が比較的安定していたため播種作業は順調で、出芽及び初期生育は順調だった。
- ・ 年内の生育はほぼ平年並だったが、12月第2半句以降の低温と乾燥の影響で生育は遅延し、下葉の黄化が目立った。また、播種が遅れたほ場では著しい莖数不足となったため、2月下旬時点での生育概況はやや不良だった。
- ・ 2月下旬以降の降雨により、乾燥による生育障害は緩和されたが、冬季から4月下旬まで低温が継続したため、出穂期は二条大麦で8日、六条大麦で4日、小麦で6日、全体的に見て7日程度遅れた。
- ・ 4月7～8日に県東北部で-3℃以下の低温に遭遇したが、幼穂凍死の被害は見られなかった。5月上旬の大雨とその後の断続的な降雨により倒伏が発生し、排水が遅かったほ場では枯れ熟れとなって子実の充実が悪くなった。また5月上中旬に降雹があり、脱粒などの被害が発生した。
- ・ 4月15日の低温と4月29日の高温の影響と考えられる不稔粒が、大麦（特にスカイゴールデン、シュンライ）で多発した。登熟期間中に県全域で全麦種に赤かび病の発生が見られ、一部で荷受け拒否が生じたが、全体では大きな問題とならなかった。
- ・ 外観品質は例年に比べ劣った。側面裂皮粒は少なかったが、剥皮粒は多かった。色沢はくすみにより劣り、基黒粒も散見された。

③ 大豆

（経営技術課情報より）

- ・ 播種は空梅雨気味であったために比較的順調に6月中旬～7月初旬に行われ、7月中旬には概ね終了した。
- ・ 6月20日の台風4号の影響で、日光と黒磯地域では一部播き直しを行ったところがあったが、全般的に見れば出芽は概ね良好で、初期生育も順調であった。
- ・ 開花期は平年よりも若干遅れの8月5日頃であった。7月中旬以降から8月にかけて高温少雨だったにもかかわらず、着莢数は平年よりもやや多かった。
- ・ 9月も高温が続いたが適度な降雨があり、子実肥大は順調に進んだ。病害虫では、カメムシ類、ハスモンヨトウ、フタスジヒメハムシ等の発生が目立った。地域別では県中北部でコガネムシ幼虫の被害が散見された。
- ・ 10月上旬頃に黄熟期を、10月下旬には収穫期を迎えたが、カメムシ類の被害により青立ち株が発生したことに加え、周期的に降雨があったために、刈り遅れ気味となった。
- ・ 収量は昨年を上回り、平年並か平年よりやや少ない程度になる見込み（単収180kg/10a程度平成25年2月5日現在）。紫斑粒は平年より少ないが、カメムシ類による被害粒は平年より多く見られた。
- ・ 大粒比率は平年を上回る見込みだが、上位等級比率は平年を大きく下回る見込み。格付け理由は、しわ粒、はく皮粒、汚損粒が多い。

(2) 野菜

① いちご

- ・平成24年産本ぼ（並～やや不良 生育期間：平成23年9月～平成24年5月）

花芽分化は、夜冷育苗では概ね平年並で、その他の作型は9月上中旬の高温の影響により平年並～やや遅い状況であった。定植作業は概ね順調に行われたが、9月下旬の気温低下により生育が遅れ気味のほ場が見られた。頂花房の花数は平年並からやや少なかった。また、1次腋花房の開花は平年並からやや早かった。作柄は平年に比べ並～やや不良であった。

病害虫は、炭疽病、萎黄病がともにやや多い発生であった。うどんこ病は10月からやや多く推移したが、1月以降は平年並となった。ハダニ類、アブラムシ類の発生は多い傾向で、灰色かび病は2月以降多くなった。

- ・平成25年産親株～苗（並 平成24年5月～9月）

低温の影響によりランナーの発生はやや遅れ気味となった。また、高温により活着の遅れや植え痛みが見られた。うどんこ病の発生は梅雨入り頃から増加したが、7月以降は高温により発生が抑えられた。ハダニ類は育苗初期からやや多い発生で推移し、一部で炭疽病の発生が見られた。

② トマト

- ・冬春トマト（並～やや不良 生育期間：平成23年10月～24年6月）

越冬長期どり作型は、初期生育は高温と遮光処理の影響で草勢低下と生育遅れがやや見られた。低段花房で収穫がやや遅れ、裂果、空洞果、着果不良等が発生し、小玉傾向であった。年内の収穫量はやや少なめであった。促成冬春どりは、定植後の生育も順調に経過した。年明け後は、低温等による着色遅れ、収穫遅れがみられ最終的な出荷量は前年対比94%と平年を下回った。

病害虫は、初期から黄化葉巻病がやや多い傾向で、灰色かび病は、天候不順の影響により、春先以降、各地で灰色かび病が多発した。併せてかいよう病の発生も確認された。

- ・夏秋トマト（並 生育期間：平成24年5月～24年9月）

高温乾燥で一部生育遅延が見られたが、作柄は平年並であった。病害虫の発生は全般に少ない傾向であった。

③ なす

- ・夏秋なす（並 生育期間：平成24年6月～11月）

5～6月はヘタ枯れ症、ブク果、7～8月は高温、乾燥により生育が遅れた。9月も気温の急変、日照不足、台風等の影響を受けたが、最終出荷数量は前年全対比100%であった。病害虫は、青枯病、アブラムシ類、アザミウマ類の発生が例年より多かった。

④ きゅうり

- ・夏秋きゅうり（並 生育期間：平成24年6月～9月）

高温乾燥の影響により一部に生育の遅れが見られたが、作柄は概ね平年並であった。

⑤ には

・冬どり（並～やや不良 生育期間：平成23年9月～平成24年5月）

養成株は、高温乾燥の影響から全体に生育が遅れ、株の充実不足がみられた。10月以降は、生育も回復したが、分けつ数は平年より1～2割程度少ない傾向であった。12月上旬には2年株の収穫と一部で1年株の保温が開始された。株の充実不足から出荷量は少なめであった。一部で12月、3月に白斑葉枯病の発生が多くなった。ネダニは、株養成期から収穫期を通して平年に比べ、多発傾向であった。

⑥ ねぎ（並 生育期間：平成24年2月～11月）

夏期から秋期の高温により生育は一週間程度遅れたが、その後は平年並の生育となった。葉鞘の太さは並だが、上位等級率がやや低かった。アザミウマ類の発生が生育期間を通してやや多かったが、その他病害虫は平年に比べ少ないから平年並の発生であった。

⑦ たまねぎ（やや不良 生育期間：平成22年9月～平成23年6月）

2月から4月にかけての低温と日照不足で生育遅れがみられ、5月以降べと病の発生が急増した。玉の肥大は小玉傾向で、作柄はやや不良であった。3月から4月にかけて黒点葉枯病の発生が目立ったが、5月以降は少ない発生となった。アブラムシ類、アザミウマ類は4月以降発生が多かった。

⑧ レタス

・秋冬どりレタス（やや不良 生育期間：平成24年9月～12月）

8月の高温乾燥により定植作業が遅れ、生育停滞や生育不良のほ場が各地で出た。収穫時期は全般に遅れ、玉は小玉傾向で、作柄はやや不良であった。

(3) 果樹

① なし (並)

催芽期は幸水で平年より6日、豊水で9日遅く、開花盛は幸水、豊水とも平年より6日遅かった。収穫期は幸水で7日、豊水で9日遅かった。夏期の高温・干ばつの影響で7月の果実肥大は停滞したが、収穫時の果重は平年並み～平年よりやや大きくなった。果実品質(糖度)は平年並みだった。みつ症等の果肉障害は豊水、あきづき、にっこりで程度や症状に差はあるが、発生量はやや多かった。生育前半から中期は黒星病の発生が多かった。生育中期以降はカメムシ類の発生が多く、ハダニ類の発生も多かった。

② ぶどう (並)

巨峰の催芽期は平年並みで、開花盛は平年より1日遅かった。収穫盛は平年より19日早かった。結実量は平年並みからやや不良で単為結果が多く、房重は平年より小さかった。果実品質(糖度)は平年並み、着色も平年並みであった。生育前半は黒とう病が散見された。生育後半はべと病、褐斑病の発生が目立った。

③ りんご (並)

ふじの催芽期は平年より8日遅く、開花盛は2日遅かった。収穫盛は平年より4日早かった。結実量は一部園地を除き、概ね平年並みであった。果実肥大は良好であったが、夏期の高温・干ばつの影響で着色はやや遅れた。果実品質(糖度)は高かった。生育中期以降、斑点落葉病の発生が多く、生育後半は褐斑病、炭疽病の発生が多かった。8月には一部ほ場でハダニ類の発生が目立った。

樹種名	品種名	催芽期		開花盛		収穫盛		果実重 g	糖度 Brix%
		月日	平年差	月日	平年差	月日	平年差		
なし	幸水	4/10	6	4/29	6	9/7	7	445	13.0
	豊水	4/9	9	4/25	6	9/30	9	560	12.7
ぶどう	巨峰	4/17	0	6/11	1	9/4	-19	272	19.0
りんご	ふじ	4/9	8	5/1	2	11/12	-4	331	15.7

注：催芽期、開花期、収穫期の平年差の-は、早くなったことを示す。

なしは2001～2010年の平均。ぶどうは1971～2010年の平均、りんごは1981～2010年の平均。

(農業試験場果樹研究室より)

(4) 花き

きく (並)

1～2月にかけて、低温の影響によりボリュームが不足する傾向にあった。8～9月にかけては、猛暑であったが、高温に強い夏秋系の導入が進んだため、開花遅延や奇形花の発生は少なかった。病害虫の発生については、白さび病は平年より少なく、ハダニ類は多め、アザミウマ類はやや多めで、アブラムシ類は平年並であった。